

Feature Points

- ▶各部署がそれぞれの役割を果たし、互いに尊重
- ▶地域で何が求められているか把握する
- ▶会社組織的な経営管理体制を構築する
- ▶状況が変化した場合の対策を早めに進める
- ▶経営や業務会議の場に外部者を入れる
- ▶地域の相互扶助で病院経営を担う時代に
- ▶地域のなかでの自院のあり方を知る

「面倒見の良い院長が朝から晩まで働いて病院経営を支えている」としては昔ながらの病院組織を引きずっておらず、会社組織になっているということがあります。たとえば、「各部署がそれぞれの役割を果たし、互いに尊重し合っている」のはプラスポイントですが、

「診療が第一で、採算性やそれを担う職種が低く見られている」などはマイナス点です。このほか、▽病院経営における公的責任を認識している、▽医師も単調作業をいとわない雰囲気がある、▽事務職が経営に関与し、組織で医療職に指示ができる存在感がある——などが挙げられます。

会社組織的な管理体制を構築 外部の風を入れ、独善を回避

経営改善に向け、まず着手すべきことは地域で何が求められているかを把握することです。院内での自己分析でも良いし、地域の同規模病院や紹介元病院の意見を聞くのも良いです。さらに、会社組織的な経営管理体制を構築し、

収益や診療の大部分を一部の医師や診療科、疾患が担っているのであれば、将来的に状況が変化した場合、組織をどう残していくか対策を早めに講じること。また、顧問税理士や付き合いのある医療関連業者でも良いですが、外部の風を入れ、孤立・独善的にならないようにすることが重要です。

エム・シー・ヘルスケア株式会社

住所：東京都港区港南
2-16-1 品川イーストワン
タワー 12階
URL：https://mc-healthcare.co.jp



地域と協働する病院経営

相互扶助で経営を担う時代に
何が求められているか把握を

医療材料、医薬品、医療機器の流通・管理を中心に病院経営の改善・効率化を図ってきたエム・シー・ヘルスケア株式会社。同社事業開発部の生田宗嗣副部長はこれから病院に求められることについて「地域の中での自院のあり方を知り、経営安定につなげるべき」と指摘する。

エム・シー・ヘルスケア株式会社
生田宗嗣 事業開発部副部長

個人でなく、組織として機能 医師がプレーヤーとして参加

経営状況については以前のよう厚生労働省のデータを参照しなくとも、関連データをまとめている情報サイトが数多く存在しています。地域の人口動態や競合病院、主たる診療科などオープンデータで経営の概況を把握することができ

多くの病院は例外なく、「患者不足」「医療職不足」「コスト高」に頭を痛めています。弊社がかかわっているなかでは経営改善や黒字化に向けた経営の分析・計画書作成は不要という病院が目立ち、どのように病床を削減したり機能分化を進めたりすればいいかの分析を求めているところが多いのが実態です。このため、地域や競合病院などを勘案して経営改善が可能か、経営層、事務長らに率直に伝え、そこを出発点にコミュニケーションを進めるようにしています。



生田宗嗣・事業開発部副部長

要素としては、▽事務責任者や経営企画部署が組織内で存在感を發揮しており、副院長や看護部長はそれと同等か、その下である組織、▽医師が一人のプレーヤーとして病院経営に参加し、「医師だから」という理由でさまざまな改善行為の対象外とならない、また受動的な対象となっていない、▽個人ではなく、組織として機能し、一人の医師や看護師、事務長らが幅を利かせて、組織や部署が個人商店のように停滞していない——などがあります。

医師が頑張ることで病院経営が成り立っていた時代が終わり、チーム医療と事務職の台頭とで経営を担う時代が来しました。しかし、今はその時代も終わり、地域の相互扶助で病院経営を担う時代になっており、医師だけ、あるいは病院単独で経営改善を図ろうとしても制度上無理です。時代に乗り遅れないよう地域をよく知り、地域の中での自院のあり方を知り、経営の安定につなげていくべきです。